

自らの思いや意図を生かして音楽表現をする楽しさを実感できる授業 ～コロナ禍を過ごした生徒が、仲間と共に楽しみながら課題解決する活動を通して～

大垣市立江並中学校 教諭 宮崎 若菜

概 要

本校の生徒は、コロナ禍の影響で約三年間、歌うことを制限された。「歌うことは好きなのに声をだすことが怖い」という生徒の言葉を受けて、新型コロナウイルスが生徒に与えた影響の大きさを痛感した。私は、主体的に音楽を表現することに対して、大きな抵抗を抱いている生徒が、心から仲間と共に音楽を奏でる楽しさを実感できるようになることを目指した。そのためには、①生徒が自ら「こんな風に演奏したい」という思いや意図がもてること、②それを表現するための技能を磨くことが大切であるとする。そこで、①生徒が主体的に思いや意図をもち、表現に繋げることができるようにするための導入や、②〔共通事項〕を要として、各領域や分野の配列を工夫した題材指導計画の作成、③自らの思いや表現をさらによりよいものにするための小集団交流の効果的な位置づけの3点について、授業改善を行った。今回の実践によって、生徒が自由に自らの思いや意図を仲間に伝え、主体的に音楽を探究して演奏する姿が増えた。生徒は音楽表現を楽しんでいると私は実感している。

1 主題設定の理由

（１）今日的課題と生徒の実態から

新型コロナウイルスの影響により、約三年間歌唱の授業を制限されていた。生徒は自らの思いや意図を仲間に伝えることや、思いや意図をもって演奏することに大きな抵抗を感じるようになっていた。約3年前の4月は、周囲の様子を伺うように声を出す様子が目立ち、同声で比較的歌いやすい「校歌」を歌唱することもできなかった。「小学校の卒業式で歌いたかった。」「歌うことは好きなのに学校では歌えない。」「友達とカラオケに行くときみたいに歌いたい。」という生徒の言葉や、「毎日お風呂で授業の歌を練習しているんです。」という保護者の声を聞いた。このことから私は、歌うことが苦手でも得意でも、好きでも嫌いでも、誰もが仲間と共に心から音楽を楽しんで演奏できるような授業展開を目指したいと強く感じた。

生徒は、中学校を卒業してしまえば、仲間と集まって合唱する機会が二度とないだろう。だからこそ私は、仲間とともに音楽を奏でる楽しさを、自らの思いや意図を表現し、実感してほしいという願いを込めて今回の実践を行った。今後、街中で流れている音楽を聴いてわくわくしたり、テレビで流れてい

る音楽を聴いて元気づけられたりと、社会生活の中で音楽に触れた時に心が動かされる人に育ってほしいと願う。そういう心を中学生のうちに育てることができれば、将来、きっと音楽が勇気づけてくれたり、助けてくれたりして、自分の人生をより豊かなものにすると考えている。

2 研究仮説

〔共通事項〕を要として、各領域や分野の配列を工夫した題材指導計画の作成し、歌うことや演奏することについて仲間と交流する目的と場の設定を工夫することで、自らの思いや意図をもって音楽表現することができる。

3 研究内容

【研究内容Ⅰ】

〔共通事項〕を要として、各領域や分野の配列を工夫した題材指導計画の作成

【研究内容Ⅱ】

自らの思いや意図を、よりよい表現にするための小集団交流の効果的な位置づけや導入の工夫について

4 研究実践

以下の4つの実践を通して研究を実施した。

〈実践①〉 第2学年『Let's Create!』（創作） 「構成を工夫して、言葉によるリズムアンサンブルをつくろう」 〈実践②〉 第1学年 『Let's search for tomorrow』（歌唱） 「曲想と音楽の特徴との関わりを感じ取って、音楽を聴いたり歌唱したりしよう」 〈実践③〉 第2学年『Santa Lucia』（歌唱） 「曲想と旋律の結びつきを生かして、音楽表現を工夫しよう」 〈実践④〉 授業前活動（導入）の工夫について 「じゃんけん列車」	
--	--

【研究内容Ⅰ】

〈実践①『Let's Create!』〉

本教材までに、「夏の思い出」を通して、情景と強弱との関わりについて学習し、「交響曲第五番」の学習を通して、リズムが生み出す効果について学習している。それらを生かして、本教材では自らのイメージを創作し、リズムや強弱が生み出す効果や、それに対する創作表現の工夫に関心をもたせる。例えば、「細かくみじんぎりされたたまねぎ」を表現するために、16分音符を使って表現したり、「食材がどんどん増えていき、サラダが完成するわくわく感」を表現するために、クレシェンドを用いたりするなどの表現がある。普段、生徒が目にする楽譜には、たくさんの音符や強弱記号などが記載されている。それらを歌唱や楽器を通して表現しようとした時に、ただ「フォルテ（強く）と書かれているから声や音を大きくする」など、知識だけの結び付きで機械的な演奏をするだけになってしまうのは、音楽が持つ魅力や音楽を表現する楽しさを味わうことは難しい。音程を伴わないリズムアンサンブルであるからこそ、歌唱に苦手意識を持つ生徒も、音楽を形作る要素が生み出す効果の面白さや、自ら音楽を表現する楽しさを感じるきっかけになってほしいと考えている。

食材のイメージに合わせて創作したリズムを組み合わせ、「サラダを盛り付ける音楽」と「サラダを食べる音楽」を創作する活動を行った。ただ、リズムを組み合わせるだけの活動ではなく、生徒自身が「こんなサラダをつくりたい」、「こ

んな風に食べたいからこんな風に演奏したい」といった思いや意図をもって、授業に取り組めるように、題材指導計画を図1のように設定した。

題材「教材」(歌唱)	本教材との関連性・生徒の発言・記述より
拍ののって、響きのある声で合唱しよう。 「夢の世界を」	歌唱 例1) サビに入ると強弱がフォルテになるのは未来に向かって力強く歩みだそうとしている様子を表現しているようだ。 →①強弱と歌詞(言葉)、情景との関わりを実感 例2) サビに入ると伴奏がなめらかな動きから弾むような動きに変化している。音の数も増えている。力強く歩みだそうとしているのを表現しているようだ。 →②リズムとデクスタチュア(音の重なり)との関わりを実感
情景を思い浮かべながら、言葉を大切に歌おう。 「夏の思い出」	歌唱 例1) 「さいている」のピアノシモは、水芭蕉の花がかわいらしくひっそりと咲いている様子を表現している。 →③強弱と情景との関わりを実感する。 ピアノシモに対するイメージを広げる。 (既習曲「魔王」に出てくるピアノシモとの比較) 例2) 「やさしいかげ」のクレシェンド→デクレシェンドは影がゆらゆらと動いている様子を表現している。 →④物理的な動きを強弱で表現することができることを知る。(「夢の世界を」のクレシェンドとの比較)
曲の構成に注目しながら、曲想の変化を味わおう。 「交響曲第五番」短調	鑑賞 例1) 「運命が扉をたく音」を表現している動機が何度もくりかえされることで、壮絶な運命がすぐそこまで迫ってきているような感じがして恐ろしい。 →⑤リズムと構成(旋律の繰り返し)がもたらす効果を実感
言葉によるリズムアンサンブルをつくろう。 「Let's Create」(創作)	創作 ①③とのつながり→サラダが完成に近づいてきて嬉しい気持ちをクレシェンドで表現しよう。 ②⑤とのつながり→野菜が細かく切られている様子をリズムを細かくして表現しよう。 ④とのつながり→サラダを食べる食材が少なくなっていく様子をデクレシェンドで表現しよう。

〈図1 題材指導計画〉

本教材における「主体的に学ぶ姿」とは、自己のイメージと音楽を形作る要素とを関わらせ、仲間とともに試行錯誤を重ねながら、リズムアンサンブルを創作する姿と考える。そのために、学びの連続性や複数領域をの配列を工夫した指導計画の作成が重要であると考えた。ゼロから「野菜のイメージに合わせてアンサンブルをつくろう」という課題を達成することは難しい。音楽の領域である「歌唱」「器楽」「鑑賞」「創作」の4つの領域それぞれで学習したことを、その領域だけで完結させるのではなく、常に他の領域、教材と結び付けていくことで、表現の幅やイメージを広げていくことに繋げた。

個人のリズムづくりでは、次のような意見が生まれた。きゅうりのリズムづくりをした生徒は、「途中で切るのを失敗して小さすぎるきゅうりがあることを表現するために8分休符を入れてみる」という思いを込めてリズムを創作していた。レタスのリズムづくりをした生徒は、「レタスは一番下にあって大きいし、他の野菜を支えているイメージだけど、サラダに入っている数も多いから、1小節目と2小節目でリズムを変化させてみた。1小節目は大きい感じを表現するために4分音符を3つ入れて、2小節目は3連符を3つ入れた。」など、それぞれの思いや意図をもってリズムを創作することができた。また、生徒が自ら進んで、自己のイメージを具体的に表現するために、強弱や速度、声のトーンなどを楽しそうに工夫する姿があった。

〈実践②『Let's search for tomorrow』〉

本教材に至るまでに、『強弱』に焦点を絞って授業計画を立てた。計画は〈図2〉の通りである。

題材「教材」	本題材との関連性 生徒の発言・記述より
曲想と音楽の特徴を感じ取って、音楽を聴こう。 「魔王」	鑑賞 例1) 魔王の中でもたくさんの歌い方がある。 例2) 強弱が大きいところと小さいところがある。 例3) 魔王が子供を誘っているシーンのところは、小さいけど不気味な感じがする。 →①曲想と強弱との関わりを実感 →②同じ強弱（P（ピアノ））の中にもたくさんの表現があることに気づく。
曲想と音楽の特徴との関わりを感じ取って、歌唱しよう。 「Let's search for tomorrow」	歌唱 (教師の問いかけ) Dの部分ではP（ピアノ）がついているね。このP（ピアノ）にはどんな思いや意図が込められているんだろう。魔王の時に出来たP（ピアノ）と同じかな。 例1) 一生懸命頑張りたいけどまだ少し怖い気持ちがあるP（ピアノ）。 例2) 緊張しているP（ピアノ）。 例3) 速く走りだしたいけど、まだDの部分では歩いているだけだからP（ピアノ）がついている。 ★「魔王」で学習した強弱と曲想との関わりを生かして、同じ強弱の中にも様々な表現があることを学ぶ。

〈図2 題材指導計画〉

題材を通して、生徒には強弱と音楽の関わりや、それに対する歌唱表現の工夫に関心をもたせた。楽譜にかかれてある強弱にはどんな思いや意図が込められているのかを考え、強弱の必然性に気づかせることを目標とした。『魔王』を通して、それぞれの登場人物を一人の歌声で歌唱表現するために、演奏者がどのような工夫をしているのか、また、曲想にはどのような工夫がされているのかに気づかせた。加えて、『Let's search for tomorrow』の歌唱表現に繋げた。特にDのP（ピアノ）の表現に絞って、その場面に込められた思いや意図について考える活動を行った。「D」の場面にはP（ピアノ）がついているが、このP（ピアノ）はただ弱く歌えばいいのか？」という問いに対して、生徒は「違う」と即答した。次に、「このP（ピアノ）は魔王が子供を誘うときの不気味で微笑みながら歌っていたP（ピアノ）と同じ気持ちで込められている？」という問いかけをした。同じように生徒は「違う」と即答をした。このように、『魔王』の強弱記号に込められた思いや意図と比較することで、『Let's search for tomorrow』に込められた思いや意図について考えることができるように題材の配列を工夫した。

P（ピアノ）の意味は“弱く”だが、ただ弱く歌ってほしいから作曲者はそこにP（ピアノ）を設置しているわけではない。生徒は作曲者がDにP（ピアノ）を設置した意図を次のように考えることができた。

生徒A：「明日こそ！」と前向きになっているけれどまだ勇気がでない。
生徒B：自分で決めたことだから、後ろを振り向かず頑張ろうとしている場面。
生徒C：すばらしい明日を願っている場面。
生徒D：チャレンジして一回失敗したけど、もう一度頑張ろうとしている場面。
生徒E：後ろを向いている人に呼び掛けている場面。

このように、P（ピアノ）をただ弱く歌うのではなく、P（ピアノ）に込められた思いや意図を、生徒自身が考えて歌唱表現につなげることができた。

DのP（ピアノ）に込められた思いを生徒自身が考えた後、「どのように歌唱表現を工夫するとよいか」という課題解決に向けて、小集団交流を設定した。しっかりと自分の思いをもった後に小集団交流を設定することで、生徒からは多様な意見がでた。歌唱表現の工夫については「息の出し方」「声の音色」「表情」に絞って考えるように提示をした。生徒からは次のような意見があった。

〈表情について〉はじめはまだ緊張しているから笑顔では歌わずに、「さあ」のところから少しずつ笑顔で歌う。
〈息の出し方〉P（ピアノ）でまだ緊張している感じを伝えたいから、息の量を多めにしてドキドキしているような歌い方をする。
〈声の音色〉「いまたびだとう 後ろ振り向かず」は心配そうな感じで歌う。「さあ」からは元気な声で歌う。

上記の波線部に記述してある「心配そうな感じで」や「元気な声で」というのは、歌唱表現の工夫といえるのかどうか難しい部分でもある。しかし、生徒の声色は確実に変化し、表現したい意図もよく伝わってくる。「元気な声」を表現するためにどのように息の使い方や、表情、発声を工夫したらよいか、ということが本来の歌唱表現である。しかし、中学生の段階ではこの「思いや意図をもつ」という活動を通して、それが音として変化していれば、歌唱表現とし評価して良いのではないだろうかと感じた。その反省を生かし、〈実践③〉第二学年「Santa Lucia」につなげた。

〈実践③『Santa Lucia』〉

本題材では、主に『旋律』に焦点を絞って授業計画を立てた。計画は〈図3〉の通りである

題材「教材」 主な活動内容	本題材との関連性 生徒の発言・記述より
曲想を思い浮かべながら合唱しよう 「夏の日の贈りもの」 〔共通事項〕 鑑賞 強弱	歌唱 例) 山は高くそびえ〜のところは旋律がいっきに高くなっているから、ものすごく高い山を表現していると思う。強弱もフォルテになっているから、大きくて立派な山が雲々と立っている様子を表現していると思う。 →①強弱・旋律と情景との関わりを実感
歌詞と旋律が生み出す効果を実感しながら歌おう 「夏祭りの月」 〔共通事項〕 鑑賞 強弱	歌唱 例) 静寂の花の宴 めぐる影影さしてのころは旋律があるが、強弱もクレシェンドがついていて、旋律が下がるも強弱もクレシェンドがついている。 →②強弱と旋律との関わりを実感
曲想と音楽の特徴との関わりを見つめながら音楽を味わおう 「アイダ」 〔共通事項〕 鑑賞 音色 テクスチャ	鑑賞 例) 静き「アイダ」のワグネルがアイダへの愛を唄う シーンではものすごく音が長くなっているし、音程も高くなっている。力強く歌っているから、アイダに勝利をさげたいという強い思いが伝わってくる。 →③強弱・旋律・音色と情景との関わりを実感
音楽の特徴を感じ取って、曲によさわしい表現を創出工夫しよう 「サンタルチア」 〔共通事項〕 鑑賞 音色 強弱	歌唱 例) ゆえに歌詞が二回繰り返しているけど、旋律と強弱が変わっている。一回目は旋律が下がっているけど、二回目は曲の中で一番高い音が出てきているし、フェルマータがついている。 1回目は「聖ルチアに対して感謝する気持ち」で歌って、2回目は「天国のルチアに届くように大きな声」で歌いたい。 ★①②③を踏まえてどのように歌いたいかの思いや意図をもって歌唱表現を自分で創出工夫する活動につなげる

〈図3 題材指導計画〉

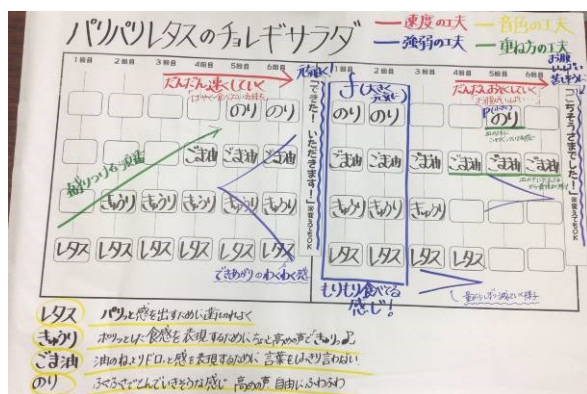
『夏の日贈り物』、『荒城の月』、『アイーダ』を通して旋律とその他の音楽を形作る要素が生み出す効果について学んでいる。その集大成として『Santa Lucia』では、音楽が形作る要素が生み出す効果を活かして、「自分はどのように歌いたいのか」という課題について、歌唱表現を創意工夫する授業展開を行った。曲の情景として、『聖ルチアをたたえる歌』という設定を押さえた。その設定を生かして、生徒たちは、自由に聖ルチアに対する気持ちと歌唱表現について考え、歌唱することができた。

【研究内容Ⅱ】

〈実践①『Let's Create』〉

導入では、教員4人による本時のゴールとなる模範演奏を撮影した動画を流した。模範演奏の内容は以下の通りである。

「パリパリレタスのチョレギサラダ」
 具材…レタス のり ごま油 きゅうり



〈図4 教員による模範演奏のモデル楽譜〉

この模範演奏によって、生徒に気づかせたかった点は『組み合わせ方の意図』と『仲間と演奏する楽しさ』の2点である。

『組み合わせ方の意図』では、「①サラダのレシピ通りに盛り付けるために、具材の順番はレシピに通りにしたこと。②食べる時は、お皿の淵にごま油のぬめりでくっついたのりを最後に残して、なかなかとれない感じを表現するために、最後まで残したこと。③食べ終わったときにお皿にたまったごま油を表現するために、ごま油は一番最後まで残すこと。」など3つの意図を伝え、実際のサラダの画像とイメージを見せながら模範演奏を見せた。

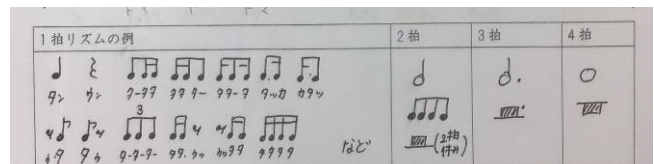
『仲間と演奏する楽しさ』では、生徒の身近な存在である教員が、生徒と同じように和気あいあいと演奏している様子を見せた。前のめりになりながらとても楽しそうに笑顔で模範演奏を見る様子があった。身近な立場の人物が演奏することで、

「自分にもできそう」や、「やってみたい」という生徒の気持ちを引き出すことができた。その後の活動でも、とても生き生きと仲間と意見を交えながら交流する姿があった。

また、本教材では、高校音楽教材である『ヴォイスリズムアンサンブル野菜の気持ち』を取り入れた。それぞれの野菜の気持ちになって演奏したり、振り付けをしたりしながら演奏している動画を視聴させることで、言葉によるリズムアンサンブルに対する興味をひきつけることができた。中学生の生徒が演奏するには少しレベルが高いため、はじめの4小節だけに取り組んだ。リズムからのイメージをもとに野菜に対する表現の仕方を考えて演奏する生徒や（例…キャベツは弾んだりリズムだからテンション高めのシャキシャキタイプだと思う、テンションマックスで思いっきり叫びたい。）、野菜のイメージから演奏の仕方を工夫する生徒（例…ピーナッツは野菜の仲間に入れてもらえなくて寂しそう。だけど存在感をアピールしたいからリズムの数が多い。）もいた。それぞれが思いや意図をもって、『野菜の気持ち』を演奏することを楽しんでいった。また、すでに完成しているリズムアンサンブルを先に学習したことで、本教材の創作を、より生徒の思いや意図がまった作品づくりにつなげることができた。

絶対的な正解がない音楽の授業において、自らの思いや意図を仲間と話すということに対して抵抗を感じている生徒は少なくない。本題材においては、創作分野であり、一から自分でリズムを創るというハードルの高い活動が組み込まれてくる。自分の考えを仲間と交流するためには、しっかりと自分の考えをもてるようになることが大切である。音楽が苦手な生徒が自信をもって、自分の考えをもてるようにするために、次のような工夫を行った。

1つ目は、ワークシートにリズムづくりの例を提示することである。〈図5〉のようなワークシートにすることで、リズムづくりが苦手な生徒は、リズムを選びながらイメージを膨らませることができた。



〈図5 リズム例を提示したワークシート〉

2つ目は、徹底した机間指導を行うことである。小集団交流を行う前には、必ず個人でじっくりと自分の考えを吟味する時間を組み込む。そうすることで、A評価の生徒は、思う存分、自分のリズム

ムづくりと向き合うことができる。B評価、C評価の生徒に対しては、教員が手だてを打つ時間をつくることができる。リズムづくりはもちろん、生徒が作ったリズムがどのような音楽になるのかをその場で伝えたり、一緒に手で叩いて練習したりした。また、自らリズムを作ることができる生徒に対しては、価値づけを行うとともに、どのようなイメージで作ったのか問い返したり、他の工夫の仕方などを助言したりした。このことで、より楽しいリズムづくりにつながる小集団交流ができた。



〈写真1 小集団交流で発表しあう様子〉

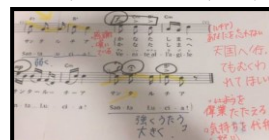
〈実践③『Santa Lucia』〉

本教材で、生徒たちは初めてイタリア歌曲に触れる。イタリア語の主な特徴を2つに絞り、導入を行った。一つは「LとRの発音の仕方」である。イタリア語の発音では、Lは舌を上歯の歯にくっつけてから離すような形で発音をし、Rは巻き舌で発音をする。この、「Rは巻き舌で発音をする」という部分こそ、日本語との大きな違いであり、生徒の興味をひく材料になると考えた。そこで、普段の日本語をイタリア語のように発音する活動を仕組んだ。例えば、お菓子の“ねるねるねるね”をLとRで発音の仕方を変えて「NERUNE RUNERUNE」, 「NELUNELUNELUNE」, 「NERUNELUNERUNE」といったように発音する。他にも、“れもん”を“REMON”と“LEMON”で発音を変えるなどの活動を取り入れた。日本語ではあるが、イタリア語に対する「難しそう。」という気持ちを軽減させ、楽しく活動することができた。その後、本来の「サンタルチア」のイタリア語の発音の練習をすると、誰一人として恥じらうことなく、一生懸命発音練習に取り組むことができた。

次時では、生徒自身がどのように歌に思いを込めて歌うかを考える授業を行った。その際、これまでの教材で学習した旋律と強弱の関わりであったり、旋律と情景の関わりを生かしたりして考えることができた。また、導入で教師の模範演奏を行った。模範演奏では、1回目の「Santa Lucia!」と2回目の「Santa Lucia!」の強弱とフェルマータなどの速度を入れ替えた演奏と、楽譜通りの演奏との比較を行った。比較演奏により、生徒は、旋律と強弱の関わりが生み出す効果や旋律と情景の関わりが生み出す効果に気づくことができた。そこに、自らの思いや意図をのせて歌うことに繋

げることができた。模範演奏では生の演奏をその場で味わうことができることや、身近な教員の演奏であるということ、また教員が気づかせたいポイントを自由に絞って演奏の仕方を変えることができるなどの利点がある。生徒は、前のめりになりながらとても楽しそうに演奏を聴いていた。教員による模範演奏には、模範CDや映像からは感じ取れない良さがあると実感した。

授業の中で、歌唱表現を創意工夫する場面で小集団交流を取り入れた。生徒は「ヴェニーテアッラジレ〜サンタルチア!」の歌詞が同じだが、旋律や速度、強弱が違う2つの部分をどのように歌唱表現をするかを考えた。模範演奏を視聴しながら個人で歌唱表現について考える時間を取り入れた後、小集団で自分の意見を交流した。交流する際は、言葉だけの活動にならないよう、一人ずつ「意見を発表→小集団で歌唱→歌ってみた感想を話し合う」という流れで交流を行うように設定した。また、小集団で一つの歌唱表現を見出すのではなく、多様な歌い方を知り、自分にあった歌い方を見つけるように声をかけた。



〈写真2 小集団交流で使用した拡大楽譜〉

〈写真2〉のグループでは2回目の「サンタルチア!」に込めたい思いや歌唱表現について、次のような意見が出た。

- 生徒A：ルチアを忘れないように思いっきりフォルテで叫ぶように歌う。
 生徒B：天国に行って報われてほしいという思いを込めて歌う。
 生徒C：生きていた時のルチアの偉業をたたえるように力強く歌う。

上記のように思いをもったグループでは、歌いながら祈るように手を重ねたり、床をたたいたりしながら、身振り手振りをつけて演奏する姿があった。本来であれば、“歌唱表現”というと、発声の仕方や表情などにこだわるのが大切なのかもしれないが、生徒の思いや意図を大事にした歌声は確実に変化しており、自ら振り付けをつけながら、自由に表現をしている姿があった。これこそ、「主体的に学ぶ姿」「音楽を楽しんでいる姿」ととらえた。教師側が想像できないような多様な考えを、生徒からたくさん学ぶことができた実践となった。

〈実践④『じゃんけん列車』〉

音楽の授業では随時授業前の3分前活動で「じゃんけん列車」を導入している。通常のじゃんけ

ん列車と異なる点は、曲想に合わせて身体を動かしながら歩くことである。その曲想に合わせて身体を動かしながらじゃんけんをしたり、曲もその時の授業内容に応じて選択したりしている。例えば「遠い日の歌（カノン進行を使用した合唱曲）」を学習している授業前活動の場合は、バッヘルベルの「カノン」を演奏するなどである。また、「魔王」のような既習したクラシック曲や、J-POPなど幅広い楽曲で様々な曲想の曲を導入している。この活動を入れることにより、「音楽の授業は楽しい」という思いを、少しでももって授業をはじめられると考えた。また、自然に仲間と触れあう時間が増えるため、その後の授業での交流も活発になると考えた。音楽を楽しむための授業を行っているのだから、たくさんの場面で音楽に触れて、仲間と交流し、一緒に音楽を楽しんでほしいという願いを込めて、授業前活動の数分間を行っている。様々な場面で音楽に触れることについて、生徒が授業開始時刻に遅れそうになっているときに、廊下で「移動が遅い。急ぎなさい。」と言うよりも、「天国と地獄」や「クシコスポスト」など運動会で馴染みのある楽曲を演奏することで、自然と急いで笑顔で音楽室に入って来る様子があった。生徒は笑顔で「この曲を聴くと、なぜか走ってしまう。」と話した。生徒自身は音楽を楽しんでいるように感じられる。本時の内容をよりよいものにするためには、授業前活動の数分間と、導入の在り方がとても大切だということが分かった。

5 成果と課題

全校生徒を対象にアンケートを実施した。

- ①仲間と共に表現について考えることが、自分のためになっていると感じられる。
- ②中学校入学時に比べて、歌唱技能が上達したと感じられる。
- ③中学校入学時に比べて、こんな風に歌いたいという思いや意図をもてるようになった。
- ④仲間と共に合唱することが楽しいと感じられる。

そう思う、少しそう思うと回答した生徒の割合は、以下の表の通りである。

	1年生	2年生	3年生	全校
①	96.0% (62.7%)	100.0% (72.6%)	98.8% (54.7%)	98.2%
②	92.0% (54.7%)	89.0% (67.1%)	95.2% (72.6%)	92.0%
③	92.0% (66.7%)	93.1% (67.1%)	97.6% (65.5%)	92.3%
④	96.0% (73.3%)	100.0% (83.6%)	97.6% (84.5%)	96.5%

【表1 アンケート集計結果】

※【表1】…（ ）内の数字は「そう思う」と回答した生徒の割合。

○成果 ●課題

○仲間と共に学ぶ楽しさや、自らの思いや意図をもって音楽表現をすることの楽しさを実感できる生徒が増えたこと

○第二学年においては、生徒全員が、仲間と共に課題解決することに意味を見出し、仲間と共に合唱することの楽しさが感じられるようになったこと

●思いや意図をもった生徒が「発声」や「息の使い方」などの技能面にも目を向けて、よりよい歌唱表現を追求できるような授業展開を考えること

音楽に対して苦手意識をもっている生徒も、誰もが自らの思いや意図を楽しんで表現できる授業展開を目指して、精進していきたい。

6 参考文献

- ・ 令和5年度 全日本音楽教育研究会全国大会 富山大会 研究紀要
- ・ 清水宏美 2022年4月発刊 音楽指導ブック これだけでできる！音楽科の授業創り すぐに使える指導案 ワークシート事例集 株式会社音楽之友社
- ・ 副島和久 伊野義博 2021年8月発刊 指導と評価がつながる！中学校音楽授業モデル第2・3学年 明治図書出版株式会社

<講評>